



## 2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月7日

上場会社名 株式会社 南陽

上場取引所 東 福

コード番号 7417 URL <https://www.nanyo.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 武内 英一郎

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長兼経営企画室長 (氏名) 篠崎 学 TEL 092-472-7331

四半期報告書提出予定日 2022年11月8日 配当支払開始予定日 2022年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	18,593	11.7	1,257	8.8	1,438	9.6	913	5.2
2022年3月期第2四半期	16,651	12.7	1,156	61.9	1,312	66.4	868	68.3

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 1,087百万円 (34.9%) 2022年3月期第2四半期 806百万円 (16.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	143.27	
2022年3月期第2四半期	136.35	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	38,102	21,552	56.6
2022年3月期	37,310	20,880	56.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 21,552百万円 2022年3月期 20,880百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		15.00		67.00	82.00
2023年3月期		15.00			
2023年3月期(予想)				73.00	88.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,000	12.0	2,700	12.5	2,900	9.0	1,850	6.3	290.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	6,615,070 株	2022年3月期	6,615,070 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	236,299 株	2022年3月期	242,516 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	6,375,664 株	2022年3月期2Q	6,370,061 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページの「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスへの感染対策を行いながら経済活動の正常化が進んだものの、地政学的リスクの高まりや、原材料・燃料価格の高騰、米国の利上げを発端とした急激な為替変動、物価上昇による個人消費の冷え込み等により、不安定な状況が続きました。

このような状況の中、当社グループの連結業績につきましては、概ね計画通りに推移し、売上高は18,593百万円（前年同期比11.7%増）、営業利益は1,257百万円（前年同期比8.8%増）、経常利益は1,438百万円（前年同期比9.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は913百万円（前年同期比5.2%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ① 建設機械事業

建設機械事業におきましては、部品不足による長納期化の影響を受ける一方、熊本地区を中心とした災害復旧工事需要が継続する中、販売部門においては即納可能な商品を中心に提案営業を強化するとともに、ICT設備をはじめとした新商品の拡販や既存顧客の深耕にも注力してまいりました。また、レンタル部門においては、サービス体制の強化に向けてレンタル機械の設備投資を実施するとともに、民需、官需の取り込みにも努めてまいりました。この結果、売上高は6,944百万円（前年同期比9.1%増）、セグメント利益は885百万円（前年同期比26.2%増）となりました。

#### ② 産業機器事業

産業機器事業におきましては、部品不足の影響を受けながらも、一部の業界においては継続して積極的な設備投資が行われる中、好調な半導体関連の市場を中心に提案営業を強化するとともに、メーカーと共同開発した商品の拡販や新規顧客の開拓にも注力してまいりました。この結果、売上高は11,426百万円（前年同期比13.4%増）となりましたが、M&Aに係る取得関連費用を計上したこと等によりセグメント利益は654百万円（前年同期比9.4%減）となりました。

#### ③ 砕石事業

砕石事業におきましては、事業を展開する地域において、継続して域外の災害復旧工事に予算が優先されたため、通常の公共工事向け需要は低調に推移した一方で、民間工事向け需要については回復の兆しが見え始めました。このような中、ニーズに合わせた砕石類、再生材の生産に注力するとともに、中小規模の公共・民間工事の受注獲得にも努めてまいりました。この結果、売上高は223百万円（前年同期比5.7%増）、セグメント利益は8百万円（前年同期はセグメント損失8百万円）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ① 資産、負債及び純資産の状況

資産は、前連結会計年度に比べ792百万円増加（2.1%増）し、38,102百万円となりました。増減の主な内容は、現金及び預金が1,666百万円減少したものの、電子記録債権が730百万円、貸与資産が609百万円、のれんが388百万円それぞれ増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度に比べ120百万円増加（0.7%増）し、16,549百万円となりました。増減の主な内容は、支払手形及び買掛金が230百万円、短期借入金等が273百万円それぞれ増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度に比べ671百万円増加（3.2%増）し、21,552百万円となりました。増減の主な内容は、利益剰余金が486百万円、為替換算調整勘定が188百万円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は56.6%と前連結会計年度に比べ0.6ポイント上昇いたしました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度に比べ1,716百万円減少（21.5%減）し、6,254百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とその増減の要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、営業活動による資金の増加は763百万円（前年同期は772百万円の増加）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、投資活動による資金の減少は1,865百万円（前年同期は573百万円の減少）となりました。これは主に前第2四半期連結累計期間に比べ、有形固定資産の取得による支出が増加したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、財務活動による資金の減少は659百万円（前年同期は600百万円の減少）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期通期の業績予想につきましては、2022年10月24日に公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」のとおりであり変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,977	6,310
受取手形及び売掛金	9,467	9,411
電子記録債権	3,160	3,890
商品及び製品	2,897	3,038
仕掛品	59	334
原材料及び貯蔵品	9	20
その他	927	1,021
貸倒引当金	△418	△479
流動資産合計	24,079	23,547
固定資産		
有形固定資産		
貸与資産（純額）	7,803	8,413
その他（純額）	3,023	3,183
有形固定資産合計	10,827	11,596
無形固定資産		
のれん	—	388
その他	109	117
無形固定資産合計	109	505
投資その他の資産		
投資有価証券	1,959	2,126
その他	344	341
貸倒引当金	△10	△15
投資その他の資産合計	2,293	2,452
固定資産合計	13,230	14,554
資産合計	37,310	38,102

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,077	6,308
電子記録債務	5,702	5,523
短期借入金	1,180	1,407
1年内返済予定の長期借入金	—	46
リース債務	593	593
未払法人税等	641	525
賞与引当金	349	352
役員賞与引当金	76	40
その他	851	783
流動負債合計	15,472	15,582
固定負債		
その他の引当金	423	428
退職給付に係る負債	349	358
その他	183	180
固定負債合計	956	967
負債合計	16,429	16,549
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,181	1,181
資本剰余金	1,020	1,025
利益剰余金	17,925	18,411
自己株式	△227	△221
株主資本合計	19,900	20,398
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	720	702
繰延ヘッジ損益	2	6
為替換算調整勘定	257	445
その他の包括利益累計額合計	980	1,154
純資産合計	20,880	21,552
負債純資産合計	37,310	38,102

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	16,651	18,593
売上原価	13,561	15,153
売上総利益	3,089	3,440
販売費及び一般管理費	1,932	2,182
営業利益	1,156	1,257
営業外収益		
受取利息	39	40
受取配当金	17	20
持分法による投資利益	17	19
為替差益	43	83
その他	47	27
営業外収益合計	165	190
営業外費用		
支払利息	9	9
その他	0	0
営業外費用合計	9	9
経常利益	1,312	1,438
特別利益		
固定資産売却益	1	0
投資有価証券売却益	—	5
特別利益合計	1	6
特別損失		
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	0	—
貸倒引当金繰入額	1	—
特別損失合計	2	0
税金等調整前四半期純利益	1,311	1,444
法人税、住民税及び事業税	424	521
法人税等調整額	17	8
法人税等合計	442	530
四半期純利益	868	913
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	868	913

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	868	913
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△166	△17
繰延ヘッジ損益	△2	4
為替換算調整勘定	68	135
持分法適用会社に対する持分相当額	38	52
その他の包括利益合計	△62	173
四半期包括利益	806	1,087
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	806	1,087
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,311	1,444
減価償却費	877	949
のれん償却額	9	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△14	47
賞与引当金の増減額(△は減少)	△16	△29
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△11	△15
受取利息及び受取配当金	△56	△60
支払利息	9	9
持分法による投資損益(△は益)	△17	△19
固定資産除売却損益(△は益)	△0	△0
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△5
売上債権の増減額(△は増加)	△770	△482
棚卸資産の増減額(△は増加)	△194	△220
仕入債務の増減額(△は減少)	66	7
その他	△118	△296
小計	1,072	1,327
利息及び配当金の受取額	72	83
利息の支払額	△9	△9
法人税等の支払額	△363	△638
営業活動によるキャッシュ・フロー	772	763
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△680	△1,480
有形固定資産の売却による収入	142	148
無形固定資産の取得による支出	△35	△13
投資有価証券の取得による支出	△2	△152
投資有価証券の売却による収入	—	13
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△330
その他の支出	△13	△54
その他の収入	14	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△573	△1,865
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△174	△134
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△75	△97
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△350	△426
財務活動によるキャッシュ・フロー	△600	△659
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	44
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△388	△1,716
現金及び現金同等物の期首残高	8,161	7,971
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,772	6,254

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	建設機械事業	産業機器事業	砕石事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,364	10,074	211	16,651	—	16,651
セグメント間の内部 売上高又は振替高	36	9	—	45	△45	—
計	6,401	10,083	211	16,696	△45	16,651
セグメント利益又は損失(△)	701	721	△8	1,415	△258	1,156

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△258百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	建設機械事業	産業機器事業	砕石事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,944	11,426	223	18,593	—	18,593
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10	16	—	26	△26	—
計	6,954	11,442	223	18,620	△26	18,593
セグメント利益	885	654	8	1,547	△289	1,257

(注) 1 セグメント利益の調整額△289百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「産業機器事業」セグメントにおいて、株式会社エイ・エス・エイ・ピイの全株式を取得し、連結の範囲に含めております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては388百万円であります。